

道徳教育の推進を目指した実践的研究

19070 高橋 紀子

キーワード： 特別の教科道徳 授業改善 カリキュラムデザイン 道徳教育の推進

概要

「特別の教科道徳」が創設され、3年目を迎えた。深刻化するいじめ問題、多様な価値観をもつ人々との共生、急速な情報化によるモラルの問題など、教科化の背景は様々である。全世界をとりまく新型コロナウイルスの影響を例にとっても、人としての生き方、他者と対話し協働しながら社会の在り方を考え続ける力が今後ますます求められるだろう。こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たすものと考えられる。しかし、教科道徳と従来では何が変わって何が変わらないのか、指導法に悩む教員も少なくない。職員研修や個々の授業改善を通して道徳教育を推進させることは、課題解決にせまり、よりよい生き方を考え続ける児童の育成につながるのではないかと考え、実践を試みた。

I 研究のねらい・方法

課題解決に向けた研修、授業改善の在り方を以下の実践を通して探る。

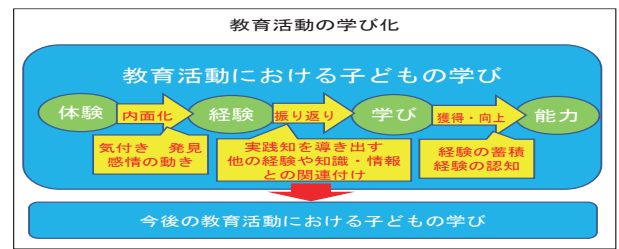
- ・ 調査研究（文献・先行研究） ・ 意識調査 ・ 研修プラン作成
- ・ カリキュラムデザインの作成 ・ 道徳科の授業実践

II 研究の結果

(1) 子どもの学びの概念整理と道徳科

道徳教育、道徳科において「学びに向かう力、人間性など」とは、「自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」そのものである。そのため、各教科などにおいて「学びに向かう力、人間性など」を育成することは、道徳性を育むことに深く関わっている。平成29年告示小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編においても、道徳科の学習指導を構想する際には、学級の実態、児童の発達段階、指導の内容や意図、教材の特質、他の教育活動との関連などに応じて柔軟な発想をもつことが大切であることが示されている。

児童は、学校の教育活動や日常生活において様々な体験をしている。そのなかで様々な道徳的価値にふれ、自分との関わりで感じたり考えたりしている。中山(2019)は、学びとは一方的に教えてもらうだけでなく、体験したことを経験(内面化)にして、さらに振り返る過程から生み出せるものであり、こうした学びにより多様な能力(認知、思考系、非認知能力)を獲得することができると示している。これらを踏まえ、道徳科を軸に教育活動をつなぎ、体験したことを学びとして獲得させていくことこそが、人としてどう生きるか他者とどう関わっていくかという資質・能力の育成につながるものであると考えた。



(2) 教員の意識調査

現任校の教員が道徳科の授業についてどんな課題や不安を抱えているのか、あるいはこれまでどんな成果があったのかを明らかにするため、管理職を含む学級担任16名を対象にアンケート調査を実施した。(令和元年7月22日)。設問は以下の通りである。

I 「手応えのあった授業」 ～強みをより強く共有へ～ これまでの道徳の授業の経験を振り返って、おすすめの授業・子どもの反応が良かった・手応えを感じた・深く考えさせることができた・学び合えたなどの授業を3つまでとその理由を教えてください。教科書・資料・絵本・写真・自作教材など出典の記述をお願いします。覚えていない範囲で構いません。
II 「困っていること みんなで解決！」 道徳の授業をする上で、難しいと思うのはどんなことですか。3つ選択してください。 ①ねらいの設定 ②授業の組み立て ③発問 ④ノートの活用 ⑤導入 ⑥対話のさせ方 ⑦教科書活用の仕方 ⑧展開 ⑨ 終末 ⑩ 板書 ⑪評価 ⑫問題意識の持たせ方 ⑬その他
III 「これからの子どもたちのために」 1 道徳の授業づくりについてお聞かせください。教材研究をどのようにされていますか。当てはまる番号を○で囲んでください。 ①指導書を参考にする ②学年で話し合う ③その他 2 今後、研修をすればしたら、どのような内容がふさわしいでしょうか。当てはまる番号を○で囲んでください。 ①道徳の基本的な用語などの研修をする ②授業づくりの研修をする ③授業を参観し合う ④評価の研修をする ⑤成果や課題を共有し合う ⑥ その他 3 道徳の授業づくりを充実させる上でご要望等ありましたらお聞かせください。

図2 教員の意識調査(設問を抜粋)

(考察)

○よい教材よい授業とは

発達段階や指導時期、他教科との関連を活かすことが有効だと考えていることが明らかになった。また、「内容をイメージしやすい」「自分事として考えられる」「価値観の対立を生かした話合いができる」教材を指導の効果が上がる「よい教材」ととらえている傾向が見られた。

○授業づくりの上で抱えている難しさ

「発問」「対話」「ノートの活用」「授業の組み立て」の順に難しさや不安を抱えており、これらを扱った研修プランを組むこととした。

○教材研究の現状

ほとんどの教員が個人で教材研究をしていることが明らかになった。指導書を参考にし、多様な本を読む、板書や発問・ノート計画、研修会に出席と回答があり、情報交換することも研修のひとつになるのではないかと考えた。

○今後の研修の要望

多忙感から、短時間でできる授業づくり研修を望んでいることが分かった。板書記録を手掛かりにすれば、授業のイメージをつかみやすいのではないかと考え、紙面研修として授業記録を参観し合うことを今後の研修に取り入れることとした。また、考え議論する道徳について、これまでの道徳とは何が違って何が求められているのか、研修を通して示していくこととした。

(3) 研修プランの開発と実践

短時間研修として職員会議を活用して行った。(臨時休校期間中に実施。図3)

1 道徳科 校内研修会 2020.04

2 CONTENTS
I 道徳って必要?
II なぜ今道徳教育なのか
III 道徳科で育てる資質・能力
IV 道徳科の授業づくり

3 道徳って 必要? ☆先生の立場から
学力と関係ない
他教科の学習でも心は育つ
学校で教えること?
どんな意味があるの?
いじめの解決には役立たない
そもそもきれいなことばかり
正直言って・・・

4 道徳って 必要? ☆子どもの立場から
テストがないからラク
教科書に出てくる人の気持ちを考える
先生の話聞いて先生が答えてほしいことを言う
⇒つまらない
実は決まった答えがない?
考えるのがむずかしい 楽しい!?

5 なぜ今 道徳教育なのか
本答申は、2030年の社会と、更にその先の豊かな未来において、一人一人の子どもたちが、自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的な変化を乗り越え、よりよい人生とよりよい社会を築いていくために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示すことを意図している。
中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）

6 これから求められる力
○どのような未来を創っていくのか
どのように社会や人生をよりよいものにしていくのか 目的を考え出す力
○答えのない課題に対して 多様な他者と協働しながら解を見出す力
思考 表現 創造
理解 判断 協働 ...

7 新しい時代に必要となる資質・能力の三つの柱
生きて働く「知識及び技能」の習得
未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

8 道徳科 教科目標 資質・能力
道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度
自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める 学びに向かう力 人間性等
物事を多面的・多角的に考える 思考力・判断力・表現力等
道徳的諸価値の意義及びその大切さを理解すること 知識及び技能

9 道徳科のとらえ
他者との話し合いを通して、教材、友達の考え、自分の考えの変容など、多面的・多角的に自己の生き方について考えを深めていく経験が重要（繰り返し 焦らずに）
↓
学校教育目標の実現に向けての資質・能力を育てる教科
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

10 道徳科内容項目のとらえ
学習指導要領の 内容項目は
教師と児童が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え 共に語り合い その実行に努めるための 共通の課題
児童自らが調和的に道徳性を養うための手掛かり
× 内容を端的に表す言葉 そのものを教え込む
× 知的な理解のみにとどまる指導
注意
小学校学習指導要領 特別の教科道徳解説編P22

1 1

道徳科 見方・考え方

様々な事象を
道徳的諸価値の理解を基に
自己との関わりで
多面的・多角的にとらえ
自己の生き方について考えること

このような
見方・考え方を
もてるように
授業をデザイン

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）
小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

1 2

「考え、対話する道徳」の授業デザイン

教材上の出来事
登場人物の行動

行動
(見える)

登場人物の心情理解
にとどまらず

登場人物が考えたこと
感じたこと

道徳的価値のレベル
まで考えられるように
する

道徳的価値に対する
自分の考え方
生き方

心の内面
(見えない)

自我関与

1 3

「考え、対話する道徳」の授業デザイン例

道徳的諸価値等の
とらえの確認

教材上の
出来事

ブレ・疑問から問い

登場人物が
感じたこと・
考えたこと

自分のこと
内容項目について

道徳的諸価値に
ついて考える
→とらえ直し

学んだこと
を振り返る

導入 展開 終末

1 4

「考え、対話する道徳」子どもの姿

教材

問題意識
価値観のズレ

問い

考え

対話する

ふりかえる
(道徳的価値観を内面
で統合していく)

あれ？どうしたことだろう。分からなくなってきた。

図3 パワーポイント資料 (一部抜粋)

学校再開が未確定で各教科の指導時数をどうするかという状況において、道徳科への意識を高めることは難しい状態であった。また、異動してきた教員や初任者が未だ児童と出会っていないなかでの研修はイメージがもてず、無理が生じていたように見えた。そこで、初任者には個別に研修の機会を設け、校内全体では、学級づくりが進んだ状態で道徳通信を発行し、意識を高めていくこととした。

(4) 初任者(2年生担任)とのかかわり

初任研一般研修や授業実践で大きく5回かかわった。そのうち3回の様子をプロセスレコードに示す。

	初任者の言動	自身の考えたこと	自身の言動	分析・考察
① 初任研 一般研修 (4月)	授業をどう作ったらいいか分からない。中学校教員コース出身で小学生の実態はよく分からない。読み取り道徳にはしたくない。	授業は児童の実態を考慮してつくること示す必要がある。	まずは担任する2年生の実態をつかむことから始まる。その上で授業づくりをしていきましょう。	・実際に授業が始まってからの課題や悩みを聞き一緒に考えていくことこそが研修になるだろう。授業をするなかで子どもをみる眼も育てたい。
② 初任者 授業実践 (6月)	指導案通りに流すだけで精一杯だった。まだまだ子どもの様子まで意識できていない。	集中して学びに向かわせられないなかでも光る発言があり、発問のよさを感じた。	今日の授業で一番子どもたちの反応が良かったのはどこでしたか？	・発問が変われば授業が変わる。児童の反応からよい発問をつくることや分析力を高めさせたい。
③ 教材研究 (7月)	次回の道徳の授業の指導案をつくらうとしているのですが、どんなことに気を付ければいいですか。この教材で授業を試してみたいのですが。(内容項目C家族愛)	毎日忙しいなかでも授業の準備に前向きになっているのが分かる。あれこれたくさん伝えるよりも前回から引き続き発問ポイントを絞った方がいいかもしれない。	授業は様々な工夫が必要だけど、まずは発問が命。スイカはおいしいところから食べるのと同じように教材のどこが一番子どもが関心を示すか考えることも教材分析や発問づくりになるんですよ。例えば教材文に「お兄ちゃんは損だ。」と書かれています。「本当にお兄ちゃんて損なのですか。」と問うのも一つの案です。	・導入の発問では「あたりまえと思っていただけどうなんだろう」という問題意識をもたせてほしいと思った。また、子どもの認識のずれを生かした発問づくりへと興味関心を引き出したい。

(5) 紙面研修としての道徳通信

「道徳科」の授業づくりについて、負担軽減を図り持続可能な研修のひとつとして道徳通信の発行を試みた。この道徳通信を活用して職員会議内で短時間の研修を実践した。内容は、道徳科オリエンテーション案、重点内容項目の確認、授業実践、板書計画やノート記録の紹介、評価についてである。時間をオーバーすることになった場合は、各自で読んでもらうこととした。以下、一例を示す。

1 主題名 いいクラスになるってどういうこと？

内容項目 C よりよい学校生活, 集団生活の充実 (関連項目: B10 友情, 信頼 11 相互理解, 寛容)

2 教材名 「ドッジボールを百倍楽しくする方法」(出典:光文書院『小学道徳ゆたかな心5年』)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人は社会的な存在であり, 家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。それらの集団に主体的に参加, 協力することで質的な向上が図られていく。新年度開始間もないこの時期に, 学級づくりにかかわる問題に向き合い, 児童が友達と信頼し尊重し合い, 様々な活動を通して, 集団を支えているのは自分たち自身であると気づかせていくことが大切である。

(2) 児童の実態

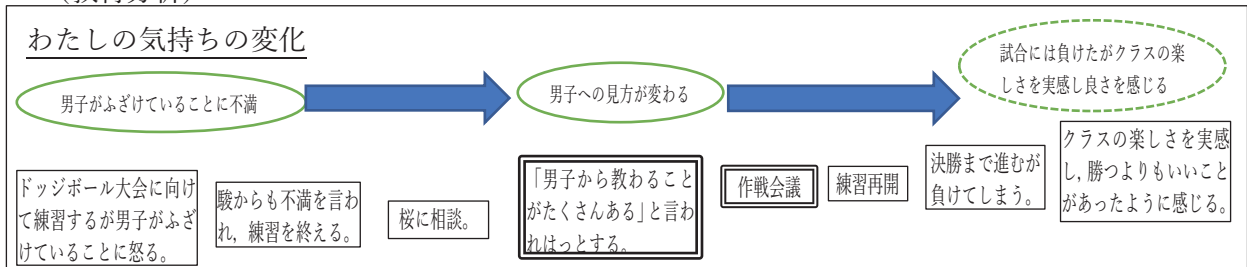
集団での学び直しを図っている段階である。これまでの経験をもとに「こんな学級をつくりたい」という願いをもつ児童がたくさんいるが, 自分の意見を表出できる児童はそう多くない。特に, 女子に声の小さい児童が多い。このような実態から, どの児童にとっても学級に安心感がもてるよう, 相手の話に傾聴し互いに尊重できるように指導を重ねている。道徳科の授業は3回目となる。

思考ツールを活用すると, 自分の考えをもてたり, 理由付けできたりする児童が増えてきた。

(3) 教材について

ドッジボール大会に向けて練習が始まるが, まじめに取り組まない男子に主人公は不満をもつ。友達(女子)に相談すると意外な答えが返ってきたことをきっかけに, 男子への見方が変わり始める。男女の友情という面だけでなく, 「クラス」としてのまとまりに目を向けさせながら, いいクラスになっていくにはどんなことが大切なのか, 教材を通して考えさせたい。

(教材分析)



思考ツール

- ・クラゲチャート
- ・赤青円盤

4 学習過程

学習活動及び学習内容	授業者のかかわり
1 「いいクラス」について考え, 問題意識をもつ。 ○いいクラスだったら～できる。 ○いいクラスだったら～な人がいる。 など 学習テーマ いいクラスになるって どういうこと？	○これまでに学級目標や学級のルール作りをしてきたことを想起させ, 児童が考える「いいクラス」についてイメージをもたせ多面的にとらえさせる。 ○数名に指名し, クラゲチャートに整理する。 ○これ以外にあるかどうか教材を通して見つけていこうと投げかける。
2 「ドッジボールを百倍楽しくする方法」の範読を聞き, 教材に含まれる道徳的価値について考える。	○児童が共感や疑問をもてるようにゆっくりと範読する。
3 読後の感想を聞く。 (発問例:この話の中でこの人いいなと思った人はいた?逆にこれはダメでしょっていう人いた?)	○登場人物についての印象を聞きクラスの一員としての「いい・よくない」の判断を問う。

このクラスはいいクラスって言える？

- 4 場面ごとの絵を見て、いいクラスと言えるかどうか、思考ツールを使いながら考える。
(補助発問例：自分もこのクラスの仲間になりたい？ それはどうして？)
○このクラスが変わり始めたのはどうしてか。
○作戦会議に自分も入るとしたら何て言うか。
- 5 主人公の最後の言葉「勝つよりいいこと」とは何かについて、考える。
○一生懸命練習して決勝で負けた。それなのにどうして今の方がずっと楽しいのか。
○「勝つよりいいこと」なんて本当にあるのか。あるとしたら何か。
○わたしは、今クラスのみんなのどんな思いを感じているだろう。
- 6 本時を振り返って考えたことを書く。
いいクラスになるって言うのは…

○2つの場面について思考ツールを使って意見表明させる。理由も問う。

○最初と最後では一人一人の心がどう変わったのか、途中で何があったのか板書を使いながら整理する。

○場面絵に吹き出しを使ってせりふを書く。

○一人一人にどんな心が生まれたのか想像させる。
○練習を重ねて決勝まで進んで敗けてしまった後どんな会話が交わされたか想像させる。

○本時で考えた「いいクラス」についてのイメージに新しく加わることはあったか問う。

(評価) 「いいクラス像」について、多面的にとらえ見方を広げ、考えることができたか。
(発言、ノート記述)

(視点) 今日の学習でいいなと思ったこと
友達の話を聴いて心に残ったこと
大切だなと思ったこと

参観②	道徳	ドッジボールを百倍楽しくする方法	授業者	5年	高橋 紀子 先生
主観名 いいクラスになるってどういうこと？					
1 「いいクラス」について考え、問題意識をもつ。 ○学習テーマ いいクラスになるってどういうこと？		①配り先生が学級づくりで大切にしたいことが伝わる掲示、「いいクラス」づくり			
2 教材の範読を聞き、教材に含まれる道徳的価値について考える。 3 読後の感想を聞く。 このクラスはいいクラスって言える？		②教材以外の教材はあらかじめ児童ノートに貼付 ③心積り盤で自分の考えを可視化。全員が考える・考えの色で分けられる便利な教具です。			
4 場面ごとの絵を見て、いいクラスと言えるかどうか、思考ツールを使いながら考える。 5 主人公の最後の言葉「勝つよりいいこと」とは何かについて、考える。 6 本時を振り返って考えたことを書く。		④心積り盤で自分の考えを可視化。全員が考える・考えの色で分けられる便利な教具です。			
⑤思わず考えたくなる発問や問い返し ⑥思考ツールや↑を使った創造的な板書、挿絵の使い方も参考にしよう。					
 <p>①たくさんの子に発表させる</p> <p>②意図的指名につなげる</p> <p>③このクラスは何点評価</p> <p>○ 研究授業のように、道徳の授業そのものから学びたいことがたくさんありましたが、配り先生からまず学びたいのは「こんな学級をつくりたい」そのために今やるべきことは何か・何を大切にしていきたいかが、パッと教室に入った私にも伝わったということです。掲示物からも、先生の子どもたちへの共感的で受容的な対応の仕方からも、そして「はい」という素直な返事「もう一度お願いします」と先生の発言を聴こうとする子どもたちの様子からも、先生と子どもたちが同じ方向を向いて「いいクラス」づくりをスタートさせていることを感じました。道徳の授業づくりは、配り先生にどんな聞いてみましょう！</p>					

(参観した初任者の感想)

・授業で使用していた赤青円盤が非常に有効であると感じました。「いい」「よくない」の微妙な内訳を表すことができる点、児童全員が参加できる点が理由です。また、自分で考えさせることが大事である道徳の授業において、話の内容や考えるべきポイントが一目で分かる板書が参考になりました。今後の授業づくりに生かしていきたいと思えます。

授業の分析

(成果)

・思考ツールの活用例、板書例を示したことで、道徳科の授業を支える要素についてイメージをもたせることができた。

(課題)

・発問構成、児童と担任との関わり方には目を向けられていない様子だった。学級づくりの一環としての授業となるよう児童同士の対話を中心に、改善を図っていく。

図7 参観記録(拠点校指導員作成・許可を得て掲載)

1 主題名 自由な生き方とは

内容項目 A1 善悪の判断, 自律, 自由と責任 (関連項目: C1 規則の尊重 C2 公正, 公平, 社会正義)

2 教材名 「うばわれた自由」(出典:文部科学省『わたしたちの道徳』)

3 ねらい

登場人物に共感したり, 登場人物の自由のとらえ方を基に自由とは何かを考えたりすることを通して, 周りの人々に迷惑をかける自由は自分勝手であることや, 自由な考えや行動を保障するには周りの人々の快適な生活を守らねばならないことに気づき, 自由についての価値観を広げたり深めたりする。また, このような学習により自律的で責任ある行動をしていこうとする道徳性を養う。

4 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値について

自由とは何か。自由には様々な側面があり, 深い問いである。哲学者苦野一徳によれば, 他者の「自由」を侵害しない限り, 誰もが自分の「自由」な生き方, 価値観を追求できること, これをわたしたちは近代社会の大原則としている。他者と自分の自由をお互いに認め合うことは, 市民教育の本質にかかわる重大な問題であり, 責任, ルール, 正義というテーマにも大きくかかわってくる。

本校は「求める心」「美しい心」「強い心」「感謝の心」をもつ児童を育てることを目指している。自由とは何か, 対話を通して追求し学び合い(求める心), 出された意見を尊重し(美しい心), 本時で得られた学びが「みんなが納得して守るきまり」(強い心)へとつながっていくことは, 児童にとって意義深いことだと考える。

(2)児童の実態

児童は, 行事や係活動等において行うイベント等の企画運営に意欲的に取り組める。ある程度の自由が保障され, 自由な発想が認められる活動が生き生きとした姿につながっている。一方で, 自分たちだけが楽しんだり, 羽目を外したりするなど, 自由と自分勝手をはき違えてしまう場面も見られる。

道徳科の学習については, 登場人物に共感したり客観的に分析したり, 自分の立場や考えを「思考ツール」で表現したりしてきた。意見をどんどん言える子, ノートに書いて考えを整理したがる子と表現スタイルが分かれてきており, 発言のバランスやノート指導に課題は多い。自分なりの言葉で価値についての考えを確かめ合える一方で, 道徳的な問題を実生活で自分との関わりで考え続けていくことについては, 今後も指導が必要である。

(3)教材について

狩り禁止の場所で狩りをするジェラル王子は, 森の番人ガリューに出会う。ジェラル王子は「人はみな自由な暮らしを望んでいる」と自分の考えを押し通す。それを「ただのわがままではないか。」と咎められたことに腹を立て, ガリューを牢に入れてしまう。やがて王子が王となると, 世の中が乱れ始める。大臣に裏切られ, とうとう王子は全てを失い牢に入れられてしまう。牢でガリューと再会した王子は涙を流し自分の愚かさを嘆くが, ガリューは「本当の自由」を大切にしていこうと諭すのであった。

このような概要であるが, 「本当の」という言葉を使うことにあたっては慎重にしたい。「本当の自由があれば嘘の自由もあるのだろうか」というスタンスで受け止め, 自由という価値について, 多面的・多角的に考えさせていきたい。

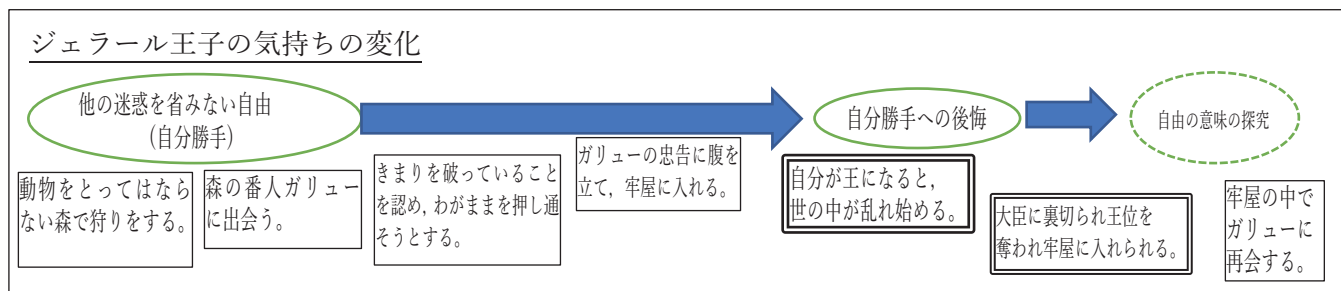
(4)これまでの学習について

教材に含まれる道徳的価値がC規則の尊重, 「権利」「義務」にもかかわっていると考え, 前時は, 「これってけんり? これってぎむ?」を学習した。「権利の国と義務の国, どちらに住みたいか?」をテーマに, それぞれの価値について考えた。ノートを見ると, 権利と義務のどちらも大切なのではないかという意見が大半であった。「権利だけだと自分がダメになる」「権利ばかりだと人が多ければ多いほど主張し合っけんかしそう」「義務ばかりはきゅうくつ」「権利だけだと自由過ぎてつまらない, 義務だけだと指摘ばかりされてつまらない」「権利の国では, 何でもできるから国が終わるし, 義務の国だとできないことが多くて国が終わる」という考えがあった。また, 「権利と義務が混ざった方が楽しいし幸せな気持ちになれる」という考えもあり, これらの学びを本時につなげたい。

(5)育てたい児童の姿

- ・感じ, 考えたことを伝え, 友達の意見をよく聴いて, 自分自身の見方や考え方を広げたり深めたりする子ども
- ・人として大切なことを理解し, それをもとに自分の生き方について考えるのが道徳科の授業であり, 夢や希望, 理想はそれぞれ違うため, 正しい答えやよい答えだけでなく様々な答えを尊重し合い, 自分を見つめ, 自分自身の生き方を見つける子ども

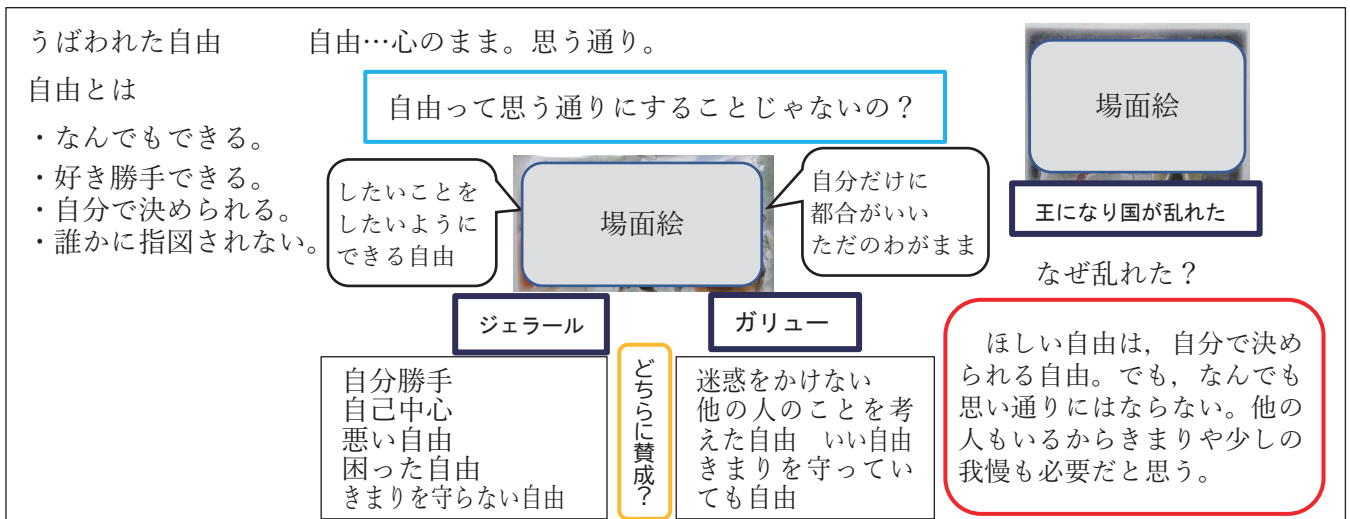
5 教材分析



6 学習過程

学習活動及び学習内容 ・予想される児童の反応	授業者のかかわり
<p>1 前時の授業「これってけんり？これってぎむ？」の学習で出された児童の意見を聞き、「自由」について考え、問題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自由についての考えを出し合う <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことが好きなだけできる。 ・自分で決めることができる。 ・好き放題すると・・・。 ・うれしい自由とか困る自由もある。 ・したくないことはしない自由もある。 ○自由の辞書的な意味を知る 「心のままであること。思う通り。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習課題「権利の国と義務の国のどちらに住みたいか」の意見を紹介し、状況によっては自由にできる場合とできない場合があることに気付かせる。 ○自由についての現時点での考えをノートに書かせ伝え合わせる。今週末は3連休で平日よりも自由な時間が増えるであろうことを話題とし、イメージをもたせる。 ○意見があまり出ない場合は作文課題での児童の意見を紹介する。 ○自由の辞書的な意味を紹介し、「どんな場合にでも思う通りにしてよいのではないかと問い、自分が取るであろう行動を見つめ直させる。
<p>学習課題： 自由って思う通りにすることじゃないの？</p>	
<p>2 教材に含まれる道徳的価値をさぐるなかで、自分なりの答えを出す。 話合いのテーマ</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ジェラルールとガリユー、どちらに賛成？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ジェラルールとガリユーの言う「自由」について自分の意見をノートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジェラルールが言う自由は、ただのわがままだ。 ・王子なら自由に決められる権利があるはず。 ・ガリユーの方が自由な生き方だ。迷惑をかけずルールを守ってでも自由と言えるはずだ。 ○ジェラルール王子が王となり、世の中が乱れたことについて、話し合う。 <p>3 教材を振り返り、価値観を新たに作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分はどんな自由がほしいだろうか、また、どんな自由ならいらないだろうか。 <p>4 学習の評価をする。 (観点) よく考えたか ・よく聞いたか 考えを伝えたか・心に残った友達の考え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の前半部分を提示し、自分勝手なジェラルール王子と王子に忠告するガリユーではどちらが自由な生き方をしているかを考えさせ、自由に対する価値観を明確にできるようにする。 ○「王子ならば権力できまりを変えることも自由ではないか」「きまりを守らない自由もあるのではないか」「したいことができなくても自由と呼べるのか」など、児童の反応を見て問い返す。 ○ノートに書いた自分の意見や対話をもとに考えを広げたり深めたりできるよう促す。 ○教材の後半部分を提示し、世の中が乱れた原因を考えさせ、「自分勝手」な考えや行動がもたらす結果についても考えさせ、それは自由と呼べるのか問う。 ○権力に屈することなく忠告したガリユーの生き方は、たとえ牢に入れられたとしても自由と言えるのか、ガリユーが守りたかったのは何なのかを問い返す。 ○本時の学習を通して考えてきた「自由」についての意味を振り返らせ、左記のように問いかけ、記述させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(評価) 「自由な生き方」について、多面的にとらえ、見方を広げ、考えることができたか。(発言、ノート記述)</p> </div>

7 板書計画



資料③ 5 学年指導略案

なんだろうなんだろう「夢」ってなんだろう
A5 希望と勇気、努力と強い意志 (D4 よりよく生きる喜び)
主題名「夢や目標をもつ」

ねらい 夢や目標について様々な視点から考え、話し合うことを通して、夢についての自分の考えを広げたり深めたりする。また、自分もよりよく生きたいと願う気持ちがあることに気付かせ、夢や目標に向かって頑張れ続けようとする態度を養う。

教材を生かすポイント
○絵本で問いかけ形式になっており、あらためて夢について考え直すことができる。
○十符っ子の日に関連させて、「夢や目標は自分にとってどんな意味があるのか」を深く考えさせたい。

展開例

学習活動と発問	○手立て ◇板書の工夫
1 「夢や目標をもつこと」について考えをもつ。 発問：将来の夢はありますか。	○十符っ子の日が近いことを想起させ、自分には将来の夢や目標があるかを問う。 ○これまでに立てた目標にどんなものがあったか、できなくて悔しかったりあきらめてしまった経験はないかを問う。
夢や目標って何のためにあるの？	
2 絵本を見て話し合う。 発問：一度決めた夢は変えてはいけないのでしょうか。 発問：夢や目標はやはりあった方がいいのでしょうか。	○iPadでスクリーンに映しながら読み聞かせる。 ◇「変えてもいい」「変えてはいけない」の立場を心情スケールで書かせる。理由も書かせる。 ○絵本の選択肢や、問いかけ、児童の反応から共感的に考えさせる。
3 本時を振り返り「夢や目標は自分にとってどんな意味があるのか」自分の考えを書く。	○板書を手掛かりにノートに考えを記述することで価値理解を深められるようにする。(評価)

お客様 C1 規則の尊重 主題名「権利と義務」

ねらい 自他の権利を大切に、自己の義務も果たそうとする心情を養う

教材を生かすポイント
○観客全員がショーを楽しむ権利がある。自分の権利だけを主張する三者の気持ちを考えさせることを通して人間理解(分かっているけどもできないことに共感しつつ、全体を考える)を深めさせる。
○客としての権利を主張し、周囲の人が同調した場面で係員が謝罪する。「わたし」はそのとき「何か変だ」と考える。何が変なのかを多面的に考えさせ、価値の理解を深めさせる。

展開例

学習活動と発問	○手立て ◇板書の工夫
1 「権利」と「義務」という言葉の意味をもち、話し合う。	○教科書の例(別紙)を紹介し、自分たちの生活の中での権利と義務について伝え合わせる。
権利と義務について考えよう	
2 教材「お客様」を読んで話し合う。 発問：子どもを肩車し始めた男の人、「そうだそうだ」と同調した人たち、「わたし」にはそれぞれどんな権利があったでしょう。	◇三者それぞれの主張(権利)を整理しながら板書する。 ○三者には共通してショーを楽しむ権利があることを押さえる。 ○「わたし」に起きた心情の変化を押さえる。 ◇様々な考えを分類して板書し、多面的にとらえられるようにする。
3 自分事で考えてみる。 ○花山野外活動での楽しみ方など	○教材を通して学んだ道徳的価値を基に自分たちの生活についても考えを交流させる。
4 本時を振り返り「権利」と「義務」についての自分の考えを書く。	○「権利」を主張することの裏返しとして「義務」を果たすことについても考えられたか記述させる。(評価)

略案を提供して1組の担任に実践を依頼した。児童の実態に合わせて修正して活用することや板書記録と児童のノートを見せ合い、授業のながれ、発問を吟味、検証することを継続してきた。それぞれの担任の創造性も大切にして授業づくりを進めることができた。

III 今後の展望

道徳教育の推進にあたって、カリキュラムデザインの作成と実践を行った。児童が体験したことを適切に振り返らせることで核となる道徳科の学びにつながる事が、実践を通して明らかになった。行事は何のために行うのか、教育目標とのつながりは何かを考えること、授業と切り離して単独でとらえるのではなく、学びの連続を図っていくことで大きな教育効果を生むことが分かった。

また、研修の在り方としては、実際に授業を参観してもらうことこそが一番の学びであると再確認することができた。それでも、校内研究教科でない道徳科に定期的に長時間研修を行うことは難しい。今回試みたように、同学年で略案を提供し合い、実践を共に振り返る時間を積み重ねることも、学び続ける教員の育成につながるのではないかと考える。

道徳教育推進教師の役割は研修会で方向性を示すだけでなく、日頃の実践上の悩みを収集しておき、それに応えるような道徳通信を発行したり、情報提供したりする支え役となることが何よりも大切である。変化し続ける学校の状況のもとでも、持続可能で学びたくなる道徳研修のあり方を探り、よりよく生きる児童の育成に取り組んでいきたい。

IV 参考・引用文献

- ・河村茂雄(2017)『アクティブラーニングのゼロ段階』図書文化。
- ・河野哲也(2018)『じぶんで考えじぶんで話すこどもを育てる哲学レッスン』河出書房新社。
- ・神代健彦・藤谷秀編著(2019)『悩めるあなたの道徳教育読本』はるか書房。
- ・松本美奈 西野真由美他(2016)『特別の教科道徳 Q&A』ミネルヴァ書房。
- ・永田繁雄編著(2016)『小学校新学習指導要領の展開』明治図書。
- ・中山芳一(2018)『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』東京書籍。
- ・日本弁護士連合会市民のための法教育委員会編(2007)『自由ってなんだろう』岩崎書店。
- ・小笠原喜康編著(2017)『哲学する道徳：現代社会を捉え直す授業づくりの新提案』東海大学出版部。
- ・押谷由夫 岡山県小学校道徳教育研究会(1997)『子どもとつくる総合単元的な道徳学習』東洋館出版社。
- ・オスカー・ブルニフィエ(2007)『子ども哲学 自由ってなに?』朝日出版社。
- ・p4cみやぎ出版企画委員会(2019)『子どもの問いでつくる道徳科』東京書籍。
- ・澤井陽介 横浜国立大学附属鎌倉小学校(2018)『鎌倉発深い学びのカリキュラムデザイン』東洋館出版社。
- ・高木展郎編著(2016)『これからの時代に求められる資質・能力の育成とは』東洋館出版社。
- ・苦野一徳(2019)『ほんとうの道徳』トランスビュー。
- ・山崎博司(2018)『答えのない道徳の問題どう解く?』ポプラ社。
- ・ヨシタケシンスケ(2019)『なんだろうなんだろう』光村図書。